2024 年度 福井大学医学部皮膚科研修プログラム

Ａ．専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で，皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる充分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に，皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し，関連領域に関する広い視野をもって診療内容の充実を目指す。皮膚科学の進歩に積極的に携わり，患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として，医の倫理の確立に努め，医療情報の開示など社会的要望に応える。

Ｂ．プログラムの概要：

皮膚科は、実際に見て触って診療することができ、内科的な疾患から外科的な疾患まで、また小児から老人まで診療できる、非常に専門性の高い診療科である。本プログラムは福井大学医学部皮膚科学教室を研修基幹施設として，福井県済生会病院皮膚科，福井勝山総合病院皮膚科、市立敦賀病院を研修連携施設，福井赤十字病院皮膚科、福井総合病院を準連携施設として加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。連携施設は今のところ県内の少数の病院に限られるため大学病院での研修が主体であり、腰を据えてアカデミックな教育を受けることができる。福井大学では、皮膚悪性腫瘍、皮膚外科、膠原病、アトピー性皮膚炎、乾癬、水疱症、皮膚遺伝性疾患をはじめとする福井県内の重症、難治性疾患の症例が集まり、質の高い診療を習得することができる。また、研修連携施設では、それぞれの病院の特徴を生かした実践的な診療の力を身につけることができる。なお、プログラムは大きく臨床コースと大学院コースに分けられ、大学院コースでは５年間の専門医研修期間中に臨床を行いながら学位を取得するシステムが構築されている（項目Ｊを参照のこと）。

Ｃ．研修体制：

研修基幹施設：福井大学医学部皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：長谷川　稔（診療科長）
専門領域：膠原病（強皮症、SLE、皮膚筋炎、血管炎など）、皮膚炎症性疾患（アトピー、乾癬など）

指導医：尾山　徳孝　専門領域：皮膚炎症性疾患（乾癬、掌蹠膿疱症、壊疽性膿皮症、ベーチェット病など）、皮膚肉芽腫性疾患、自己免疫性水疱症、皮膚遺伝性疾患、皮膚アレ

ルギー性疾患（食物・環境抗原アレルギー、蕁麻疹、アトピー性皮膚炎など）

指導医：飯野　志郎　専門領域：皮膚外科（皮膚腫瘍手術、熱傷、壊死性筋膜炎など）、皮膚腫瘍（皮膚悪性腫瘍の集学的治療、皮膚腫瘍病理、ダーモスコピー）

指導医：馬場　夏希　専門領域：皮膚外科、皮膚腫瘍

施設特徴

専門外来として，皮膚外科・腫瘍外来、膠原病外来、乾癬外来、アトピー性皮膚炎外来、接触皮膚炎外来、レーザー外来、水疱症外来、遺伝性皮膚疾患外来などの専門外来を設けている。患者数は決して多くないが、重症・難治性・珍しい症例などの紹介症例が集まってきており、全体の症例数も増加傾向にある。

少人数の教室のため、手術においては早い段階で執刀医として手術を行い、1年で日本皮膚科学会の定める皮膚科専門医の基準を満たす手術手技を習得する。手術の指導は皮膚外科専門の指導医がマンツーマンで行い、週に一度の手術カンファレンスでは、他の医局員の手術手技などを教室員にフィードバックしている。これにより早い段階で執刀医として安全に手術することが可能である。また、教授が強皮症などの膠原病の専門であり、皮膚だけの疾患に限らず、全身を診察できる皮膚科医の育成を目標としている。また、悪性黒色腫や乾癬などに対して、生物学的製剤、免疫チェックポイント阻害薬などを用いた最新の治療を多数行っている。さらに、レーザー治療の技術も高く、全身麻酔下でのレーザー治療も積極的に行っている。毎週開催する病理カンファレンスには、病理学講座の先生にも何名か参加いただき、専門性やレベルの高い検討、教育を行っているのも当施設ならではの診療・教育体制である。

１～２年で英文を含めたいくつかの症例報告論文を書くことを奨励しており、専門医が確実にとれるように学会、論文指導にも力を入れている。研究面では、本プログラムのアピールポイントとして、大学院生が臨床と両立しながら学位取得が可能な教育システムを組んでおり、リサーチマインドを有する皮膚科医の育成を目標としている。また、大学院生でなくても興味のある研究ができる環境を整えている。

研修連携施設：

・福井県済生会病院皮膚科
所在地：福井県福井市和田中町舟橋 7-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：長谷川　義典（主任部長）

・JCHO 福井勝山総合病院皮膚科
所在地：福井県勝山市長山町 2－6－2
プログラム連携施設担当者（指導医）：高橋　秀典（部長）

・市立敦賀病院皮膚科
所在地：福井県敦賀市三島町 1-6-60
プログラム連携施設担当者（指導医）：笠松　宏至（医長）

研修準連携施設：

・福井赤十字病院
所在地：福井県福井市月見 2-4-1

・福井総合病院皮膚科
所在地：福井県福井市江上町 58－16－1

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者，プログラム連携施設担当者，指導医，他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は，専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる

研修管理委員会委員

委員長：長谷川　稔（福井大学医学部附属病院皮膚科）
委　員：尾山　徳孝（福井大学医学部附属病院皮膚科）
：飯野　志郎（福井大学医学部附属病院皮膚科）
：馬場　夏希（福井大学医学部附属病院皮膚科）
：長谷川　義典（福井県済生会病院皮膚科主任部長）
：高橋　秀典（JCHO 福井勝山総合病院部長）
：笠松　宏至（市立敦賀病院医長）
：京盛　愛枝（福井大学医学部附属病院病棟師長）

2022 年度診療実績

皮膚科

	1 日平均 外来患者数	1 日平均 入院患者数	局所麻酔 年間手術数 (含生検術)	全身麻酔 年間手術数	指導医数
福井大学附属病院	59.3 人	7.8 人	297 件	21 件	4 人
福井県済生会病院	50 人	6 人	346 件	26 件	2 人
福井勝山総合病院	40.5 人	1.4 人	94 件	0 件	1 人
市立敦賀病院	41.5 人	2.8 人	408 件	0 件	1 人
合計	191.3 人	18 人	1145 件	47 件	8 人

D．募集定員：４人

E．研修応募者の選考方法：

書類審査および面接により決定（福井大学医学部皮膚科のホームページ等で公表する）。また，選考結果は，本人あてに別途通知する。なお、応募方法については、応募申請書を福井大学医学部皮膚科のホームページよりダウンロードし、履歴書と併せて提出すること。応募者が募集定員を上回る場合は、面接を行って選考する。

F．研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は，研修開始年の 3 月 31 日までにプログラム登録申請書（仮称）に必要事項を記載のうえ，プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後，同年 4 月 30 日までに皮膚科領域専門医委員会（yasuek@u-fukui.ac.jp）に通知すること。

G．研修プログラム　問い合わせ先

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3
福井大学医学部附属病院皮膚科
医局長　井戸英樹　または　秘書　黒川靖恵
TEL：0776-61-8367
FAX：0776-61-8112
E-mail: yasuek@u-fukui.ac.jp

H．到達研修目標：

本研修プログラムには，いくつかの項目において，到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムの p. 26～27 には経験目標を掲示しているので熟読すること。

Ｉ．研修施設群における研修分担：

それぞれの研修施設の特徴を生かした偏りのない疾患群の診断や治療を研鑽することが可能であり，研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

１．福井大学医学部皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後，難治性疾患，悪性皮膚腫瘍、稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力にとどまらず，臨床面を活かした教育・研究などの総合力を培い、次世代の指導者としてふさわしく、科学的な見地から診療できる皮膚科医を育てていく。もちろん、学会発表や論文作成などにおいても、レベルの高い指導をしていく。

２．連携施設の福井県済生会病院皮膚科、福井総合勝山病院皮膚科、市立敦賀病院、準連携施設の福井赤十字病院、福井総合病院皮膚科では少なくとも１年間の研修を行う。急性期疾患，頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、福井大学医学部皮膚科の研修を補完する。

福井県済生会病院では、皮膚外科手術、レーザー治療などの研修が充実している。皮膚感染症や乾癬、水疱症の症例も多く、臨床経験を積むことができる。褥瘡チームやフットケアチームなどチーム医療にも参加し、チーム医療の重要性を学ぶこともできる。

福井総合勝山病院では、真菌などの皮膚感染症、褥瘡を含めた皮膚潰瘍などをはじめ、皮膚疾患全般を詳しく研修できる。

市立敦賀病院では、膠原病や乾癬、アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患、皮膚外科手術、レーザー治療をはじめ、皮膚疾患全般を研修できる。

Ｊ．研修内容について

１．研修コース

本研修プログラムでは，以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。希望のコースを選んでいただくが、選択に迷う場合には相談に応じる。また、途中でコースの変更も可能である。

臨床コース：研修基幹施設（大学）と研修連携施設で、臨床を中心に研修する基本的なコース。５年間の間に少なくとも 1～２年は研修連携施設で研修する。ありふれた疾患から重症や難治性疾患まで、高い臨床能力を身につけることができる。対象となるのは、少なくとも研修早期からは研究活動を考えておらず、臨床中心で皮膚科医としての即戦力をつけたい人である。

大学院コース：研修開始と同時に、または研修の途中で大学院に入るコース。研修期間内に学位を取得したい場合は、研修開始と同時に大学院に入る必要がある。学位取得が間に合わない場合は、研修終了後も学位取得まで大学院に在籍する。大学院に入る時期については決めてなくてよいが、留学を考えている場合には早めの入学が望ましい。それまでは研修基幹施設と研修連携施設で研修する。大学院の間も臨床研修を完全に離れることなく、研究活動との両立を目指す。特に、研修１年目の場合は、臨床が中心となる。すべての人にお薦めのコースであるが、特に大学で教官などを目指す方は、このコースを選択すべきである。少なくとも１年間は、連携施設で研修する。

以下に例を示す。申請者は臨床コースか大学院コースのどちらかを選択する。研修医 A、B、C・・はあくまで例として個々のケースを示したものであり、各年度に基幹病院で勤務するか、連携施設で勤務するか、大学院生として基幹病院で働くかなどは、本人の希望と大学や病院の事情をもとに研修開始前や１年ごとに決めていくものであり、最初から５年間のスケジュールが決まっているわけではない。

コース	例	研修 1 年目	研修 2 年目	研修 3 年目	研修 4 年目	研修 5 年目
臨床	研修医 A	基幹	連携	基幹	基幹	連携
	研修医 B	基幹	基幹	連携	基幹	基幹
	研修医 C	基幹	連携	基幹	連携	連携
	研修医 D	基幹	連携	基幹	準連携	基幹

大学院	研修医 D	大学院 臨床中心	大学院 臨床/研究	大学院 臨床/研究	大学院 臨床/研究	連携
	研修医 E	基幹	連携	大学院 臨床/研究	大学院 臨床/研究	大学院 臨床/研究

＊ 研修医 E の場合は、研修終了後も学位取得まで大学院に在籍する必要がある。

２．研修方法

１）福井大学医学部皮膚科

外来：１年目は、診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。２年目以降は、可能であれば１人での診察の機会を与える。専門外来も指導医と共に診療を担当してもらう。

病棟：病棟医長のもと診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理・症例カンファレンスで症例発表を行い、皮膚科医のみならず病理専門医からも評価・指導を受ける。

日本皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に 2 編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表(例)

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来または 手術	外来	外来または 手術	外勤	処置	
午後	病棟または専 門外来	手術 病棟 病理カンファ (研究カンファ)	教授回診 症例検討 病棟 臨床カンファ	病棟または専 門外来	病棟または専 門外来		

２）連携施設

(1)福井県済生会病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，皮膚科診療、処置，手術法を習得する。福井大学皮膚科学教室のカンファレンスに

週１回参加し学習する。福井県皮膚科医会の勉強会で年 3 回の症例発表を行う。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、年に１編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。
皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全および感染対策などの講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表(例)

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来 手術	外来		
午後	病棟 外来 小手術	病棟 手術	病棟 外来 大学ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ出席	病棟 褥瘡回診	病棟 手術	 宿直※	

※宿直は１～２回／月を予定

(2)福井勝山総合病院皮膚科

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，救急医療，処置，手術法，真菌培養手技などを習得する。福井大学皮膚科学教室のカンファレンスに週１回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、年に１編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。
皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表(例)

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来 院内褥瘡カンファレンス	病棟 手術	病棟 外来 大学ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ出席	病棟 外来	病棟 手術		

※宿直は 1～3 回／月を予定

(3) 市立敦賀病院皮膚科

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，救急医療，処置，手術法，レーザー治療などを習得する。福井大学皮膚科学教室のカンファレンスに週１回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また，年に１編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナー，福井県皮膚科医会に積極的に参加する。病院が実施する医療安全や感染対策講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表(例)

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 手術	病棟	病棟 褥瘡カンファレンス 大学ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ出席	病棟 手術	病棟 レーザー		

※宿日直は 2～3 回／月を予定

(4) 研修準連携施設

福井赤十字病院では、地域医療の中核病院の勤務医として、３人体制の２番目または３番目の立場で第一線の皮膚科診療を習得する。福井総合病院では、指導医の資格をまだ得ていない皮膚科医とともに、あるいは１人で診療を行うことがある。しかし、大学から指導医が非常勤で指導を行い、大学のカンファレンスにも参加が可能である。また、大学と患者紹介や診療相談を行うことにより，病病連携を習得する。

３.大学院

研修１年目の場合は、臨床の基礎を身につけることが重要なため、基本的に日中は大学病院にて臨床コースと同様にフルタイムで研修し，17 時以降，大学院講義出席，研究を行う。研修２年目以降の場合は、臨床コースに比べて

臨床の duty は減らすが、臨床から完全に離れる訳ではない。この期間，大学病院での研修および達成度評価・年次総合評価は不要とする。

研修の年間予定表

月	行事予定
4	１年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 ２年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	
6	日本皮膚科学会総会、北陸地方会
7	
8	
9	北陸地方会分科会
10	日本皮膚科学会中部支部学術大会
11	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施
12	研修プログラム管理委員会を開催し，専攻医の研修状況の確認を行う（開催時期は年度によって異なる）、北陸地方会
1	
2	５年目：研修の記録の統括評価を行う。北陸地方会
3	当該年度の研修終了し，年度評価を行う。 皮膚科専門医受験申請受付

その他、必要に応じて北陸地方会以外の学会にも参加する。

K．各年度の目標：

１，２年目：主に福井大学医学部皮膚科学教室において，カリキュラムに定められた一般目標，個別目標（1. 基本的知識 2. 診療技術 3. 薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4. 医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5. 生涯教育）を学習し，経験目標（1. 臨床症例経験 2. 手術症例経験 3. 検査経験）を中心に研修する。

３　年　目：経験目標を概ね修了し，皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。

４，５年目：経験目標疾患をすべて経験し，学習目標として定められている難治性疾患，稀な疾患など，より専門性の高い疾患の研修を行う。３年目までに習得した知識，技術をさらに深化・確実なものとし，生涯学習する方策，習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形で

の研究活動に携わり，その成果を国内外の学会で発表し，論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり，研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。

毎　年　度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、北陸地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。PubMED などの検索や日本皮膚科学会が提供する E-ラーニングを受講し、自己学習に励む。

Ｌ．研修実績の記録：

１．「研修の記録」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，利用すること。

２．「研修の記録」の評価票に以下の研修実績を記録する。
経験記録（皮膚科学各論，皮膚科的検査法，理学療法，手術療法），講習会受講記録（医療安全，感染対策，医療倫理，専門医共通講習，日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会，専攻医選択講習会），学術業績記録（学会発表記録，論文発表記録）。

３．専門医研修管理委員会はカンファレンスの出席を記録する。

４．専攻医，指導医，総括プログラム責任者は「研修の記録」の評価票を用いて下記（M）の評価後，評価票を毎年保存する。

５．「皮膚科専門医研修マニュアル」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，確認すること。特に p.15～16 では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

Ｍ．研修の評価：

診療活動はもちろんのこと，知識の習熟度，技能の修得度，患者さんや同僚，他職種への態度，学術活動などの診療外活動，倫理社会的事項の理解度などにより，研修状況を総合的に評価され，「研修の記録」に記録される。

１．専攻医は「研修の記録」のＡ.形成的評価票に自己評価を記入し，毎年３月末までに指導医の評価を受ける。また，経験記録は適時，指導医の確認を受け確認印をもらう。

２．専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価，指導医に対する評価，研修施設に対する評価，研修プログラムに対する評価を記載し，指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム責任者に直接口頭、あるいは文書で伝えることとする。

３．指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また，看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
４．研修プログラム責任者は，研修プログラム管理委員会を開催し，提出された評価票を元に次年度の研修内容，プログラム，研修環境の改善を検討する。
５．専攻医は研修修了時までに全ての記載が終わった「研修の記録」，経験症例レポート 15 例，手術症例レポート 10 例以上をプログラム統括責任者に提出し，総括評価を受ける。
６．研修プログラム責任者は，研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し，総括評価を記載した研修修了証明書を発行し，皮膚科領域専門医委員会に提出する。

Ｎ．研修の休止・中断，異動：

１．研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
２．研修期間のうち，産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大６ヶ月までは研修期間に認められる。なお，出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
３．諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要が生じた場合，すみやかにプログラム統括責任者に連絡し，中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

Ｏ．労務条件、労働安全：

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。

給与，休暇等については各施設のホームページを参照，あるいは人事課に問い合わせること。

2023 年 4 月 6 日
福井大学医学部皮膚科
専門研修プログラム統括責任者
長谷川　稔